

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第1回地域再生分科会		
日時	平成20年10月3日(金) 午前10時~正午	場所	市役所4-1会議室
出席者 (出席者... 欠席者...)	委員	<p>【1号委員】 中川 大委員(座長)、 大庭哲治委員</p> <p>【2号委員】 長柄光信委員、 中岡武司委員、 大西 清委員</p> <p>【3号委員】 阪部光雄委員 代理：戸田辰司(京都運輸支局運輸企画専門官)、 羽田祐治委員、 田中達男委員、 大西寛典委員、 芝野康之委員</p> <p>【4号委員】 松中亮治委員(副座長)</p>	
	その他	<p>【オブザーバー】 堤 俊哉(国土交通省近畿運輸局企画観光部交通企画課長)</p>	
事務局	大西課長、坂元係長、西村主任 株式会社地域未来研究所 田中雅宣、義浦慶子、堀部良治、前田雅人		
傍聴者	0人(うち 報道関係者0人)		
議題	<p>1.開会</p> <p>2.近畿運輸局あいさつ</p> <p>3.座長の選任について</p> <p>4.副座長の選任について</p> <p>5.座長・副座長あいさつ</p> <p>6.議事</p> <p>(1)協議事項 地方の元気再生事業の取り組みについて 事業概要 コミュニティバス社会実験 その他</p> <p>(2)その他 法定協議会への報告の取扱について 次回分科会について その他</p> <p>7.閉会</p>		
会議結果要旨	<p>1.開会 事務局より開会を宣言した。</p> <p>2.近畿運輸局あいさつ 堤課長より、開会にあたりあいさつがあった。</p> <p>3.座長の選任について 中川委員を座長に選任した。</p>		

	<p>4. 副座長の選任について 松中委員を副座長に選任した。</p> <p>5. 座長・副座長あいさつ 中川座長より、開会にあたりあいさつがあった。</p> <p>6. 議事 地域再生分科会設置規程により、中川座長が議長となり、また議長から会議録署名委員として、長柄光信委員を指名した。</p> <p>(1) 協議事項 地方の元気再生事業の取り組みについて 事業概要 「No.1 地方の元気再生事業の取り組みについて(事業概要・実施計画(案))」 「No.4 平成20年度地方の元気再生事業」を用いて、今年度に予定している取り組み内容や、地方の元気再生事業について説明した。 コミュニティバス社会実験 「No.2 加茂地域における社会実験運行計画(案)」を用いて、加茂地域におけるコミュニティバスの社会実験の内容について説明した。</p> <p>(2) その他 法定協議会への報告の取扱いについて 10月3日(金)の協議会において、分科会での検討結果を報告する。</p> <p>次回分科会について 開催日程が未定であるため、日程が決まり次第連絡する旨を伝えた。</p> <p>7. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 近畿運輸局あいさつ 会議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 座長の選任について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 副座長の選任について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>5. 座長・副座長あいさつ 会議結果要旨のとおり。</p>

6. 議事

(1) 協議事項

地方の元気再生事業の取り組みについて

事業概要

会議結果要旨のとおり。

【配布資料】

- ・No.1 地方の元気再生事業の取り組みについて（事業概要・実施計画（案））
- ・No.4 平成20年度地方の元気再生事業

【主な意見・質疑等】（…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答）

・観光資源として、恭仁宮跡や加茂の三塔などがある。加茂の三塔とは、浄瑠璃寺、岩船寺、海住山寺にある塔のことである。三塔のうち、2つは国宝、もう1つは重要文化財であり、非常に格の高い観光資源である。

・学術的、歴史的な価値を吟味することと、観光で多くの人に来ていただいて活力をもたらすことは、必ずしも同じではない。歴史的な価値を活かしながら、この地域に多くの人を呼び込み、満足して帰っていただく。その結果として、地域にメリットがもたらされるような仕組みづくりが目指すべきところだと思う。

・多くの人に興味をもち、楽しんでもらえるアイデアを検討したい。お金を使うだけでなく、頭を使って魅力ある観光地域としたい。観光地の魅力を高めるために何が必要か、皆さんの活発な意見、アイデアをいただきたい。

・今回は加茂地域が対象の事業だが、他の地域にも多くの人があるチャンスがあると思う。

・まずは、木津川市民を加茂地域へ呼び込むという視点も重要であるため、全市を挙げて取り組んでいきたい。そして木津川市の知名度が上がることによって、加茂地域以外にもメリットが出るようになれば良いと思う。

・観光協会としては、ありがたい話である。

・将来的には加茂地域だけでなく、全市で取り組んでいただきたい。

・観光商工課は9月1日に新たに設立された課であり、どのようにして木津川市の魅力を高めるか、重要な課題だと認識している。

・2010年に平城遷都1300年祭が奈良で開催される。翌年度には国民文化祭（京都2011）が開催される。奈良と木津川市は近隣市であり、恭仁京は奈良地域の文化的遺産とつながりが強く、先日も1300年祭の広域的連携に関する会議に出席してきた。奈良県、奈良市も、加茂の三塔を非常に重要視されており、何かできないかという投げかけをいただいている。観光商工課としては、1300年祭の前に何か事業に取り組んでいかなければならないと考えている。

・加茂地域へのアクセス方法を問い合わせられる方は非常に多いが、バスの本数などアクセスの不便さを伝えると、非常にがっかりされた経験がある。バスの本数などのサービスが向上すれば、訪れる方が増えていくのではないかと思う。

・1300年祭、国民文化祭以降にも、木津川市として継続して取り組んでいけるようなものに結びつけていきたい。

▶ ・観光と公共交通を結びつけることは非常に重要である。

・継続性は非常に重要で、これを目指すには、「民・学・官」による連携体制を構築していかなければならない。

・観光で大変重要な要素は、通年化である。年間を通して観光客に訪れてもらえるようにすることが重要である。特定の時期に観光客が集中し、その他の時期は激減する、といったことがないように取り組んでいく。このあたりも、大きなテーマの1つである。

・今年度は11月から事業を開始していくことになる。11月は観光シーズンなので、多くの観光客が訪れるチャンスがあると思うが、12月～2月は閑散期にあたる。通年化を目指すのであれば、この閑散期にどれだけ頑張れるかというのもひとつの課題であり、頑張れば1月、2月あたりにこれまで以上の観光客が訪れる可能性もある。

恭仁京遷都は何年なのか。

▶ ・740年である。

・歴史的、学術的に恭仁宮跡は重要な資源だが、恭仁宮跡を訪れてもあまり感動は得られるような感じはない。何をすれば、この地域を訪れた方が感動してもらえるか、これについても考えなければならない。

・木津川市は合併をしてまだ1年半しか経っておらず、今後何をPRしていくかが課題である。商工会も旧町を引き継いだままの状態です3団体あり、市から早く一本化して欲しいと伝えている。

・木津川市ブランドを創っていくことが重要である。温泉がある、美味しい料理がある、珍しい土産物があるなど、何かしらの特徴を持つことが集客のキーワードかと思う。木津川市の現状を考えると、温泉はなく、特に珍しい料理もない。また、土産物も商工会などで工夫されているが、全国的に見ればよく似たものが売られている。そこで、切り口を変えて考えることが大事かと思う。最近、「環境・健康」というキーワードをよく聞くが、この分野は木津川市が強いのではないか。

・今回は加茂地域が中心となるが、例えば海住山寺から木津川市が一望できる山へ歩いていくこともでき、風光明媚というか、非常に景色の良い場所がある。1日歩いて楽しんでいただき、将来的には宿泊施設もある。このような展開ができればと考えている。

▶ ・魅力的なものは、発掘して紹介していただきたい。住民が魅力的だと思うところと、外部の人が魅力的だと感じる場所は異なる場合があるので、注意が必要である。例えば、奥畑の茶畑、そこから見える農村地域の景観など、とても魅力的であり、大きな財産だと思う。

・「食」は何か考えたい。これは、あまり奇をてらわないものが良い。多くの人が日頃から口にしている普通のものに、名前を付けてブランド化していくことが良いのではないか。例えば讃岐うどんは、うどんはどの地域にもあるからこそ普及しているのではないか。他と何か違って良くと、全然違うものを作ってしまうと、なかなかメジャーになりにくい。

・地域の人々が作っていて、地域の人に還元される仕組みも必要である。地域の名

前を冠した食べ物があり、それぞれの店がその食べ物を提供すれば、地域全体の知名度も上がるし、個々のお店にも還元される。

・恭仁宮跡のある瓶原地域にはまちづくり団体があり、恭仁宮跡を中心に様々な活動をしている。食べ物に関しては、地元で作ったこんにやく芋を加工してこんにやくを作り、農産物の市などで販売している。祭りや観光の催しなどがあれば、例幣餅の販売もしている。例幣餅とは、五平餅のようなもので米を元に作られている。また、そばを育てており、実からそば粉を作り、そばを打つこともやっている。

・恭仁宮跡でコスモス畑が育てられており、秋にはコスモス祭りが行われている。今年は、10月25日、26日に開催される。

・また、10月に芋煮会も行われる。これは里芋を煮て来場者に100円で振る舞うものである。

・第2・4日曜日に恭仁小学校付近で、9時から正午まで地元の野菜を販売する野菜市を行っている。

・観光地として知っていただくため、さまざまな取り組みを行っている。

例えば地域名を上手く活かし加茂南蛮といった名称のものはどうか。加茂地域の「加茂」と「鴨」をかけている。

現在の加茂地域への観光客数は把握しているのか。この取り組みの成果を検証するために、現状を把握する必要がある。また、この事業による観光客増加の目標値は設定しているのか。

- ▶ ・観光客数は年間で30～40万人である。シーズン別では把握していない。
- ・木津川市の総合計画を策定中であり、その中で観光入込客数の数値目標を設定し、成果を見ていこうとしている。平成19年度末のデータでは38万5千人だが、これを平成25年度末には39万人、平成30年度末には40万人と設定している。
- ・観光客数は月別のデータがあるはずなので、しっかりと数字を押さえ、数値目標もある程度定めながら、元気が出るような取り組みを考えたい。

鹿背山では柿が有名であり、柿狩りも他の地域から見れば魅力的ではないか。加茂地域に来た観光客に、半日は寺巡り、半日は柿狩りというコースを提案してはどうか。

- ▶ ・最初に、ありとあらゆるコンテンツを一度整理する必要がある。掘り出せばいろいろ出てくるのではないか。
- ・多くのコンテンツがある中で、11月からバスサービスが改善し周遊しやすくなるが、知ってもらわなければ意味がない。パンフレットに限らず様々な方法での情報発信が大事だと思う。

・木津川市は夜空がとても綺麗なもので、夜にプラネタリウムを活用することは、夜の観光という視点からも良いのではないか。加茂山の家付近では明かりが少な

いため、星を見るというコンテンツも魅力的だと思う。

・当尾線の終点は加茂山の家であるし、プラネタリウムの開館日を増やすことはできないか。平日にスタッフが山の家にいるのであれば、少しずつ日数を増やしていくことを考えてはどうか。山を家の利用者が増えればバスの利用者も増えることになる。せっかく良い施設があるので、活用できればと思う。

▶ ・星を見る会の開催やパンフレットの作成など、スタッフが一生懸命様々な取り組みをしている。このようなイベントには、地元の方がたくさん来ていただいて喜ばれているが、外部から訪れる方は少ない。他地域の方への情報発信が不十分かと思う。

・開館日数は、旧加茂町時代に利用者が少なかったため、日数を減らした経緯がある。

・木津川市合併後、木津川市の魅力を探る木津川魅力探検ツアーを行っている。観光協会やボランティアガイドの方々と、1日歩いて回るものである。ウォーキングということで、「健康」あるいは「環境」というキーワードに結びつけやすいと思う。プラネタリウムなど他のコンテンツを、探検ツアーに入れ込めば、様々なツアーが企画できるのではないか。

・今年度はツアーを5回実施する予定である。このツアーは加茂地域ではなく、山城地域の森林公園などを回ることを考えている。また、昨年度は7回実施したと聞いている。

・柿狩りや大根抜きなども、魅力探検ツアーの中で実施するなど、市内の方はもちろん、市外の方も含め、より多くの方に来ていただくための取り組みを考えている。

▶ ・これまで行ってきた取り組みは非常に面白いものであり、それぞれの取組みについて、整理を行う。

・実施されているコンテンツはどれも面白く、可能性があるものだと思う。食に関するもの、魅力的なものもたくさんある。面白くなるのではないか。

コミュニティバス社会実験

会議結果要旨のとおり。

【配布資料】

・No.2 加茂地域における社会実験運行計画（案）

【主な意見・質疑等】（…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答）

・当尾線については、国の補助金をいただいて大学が実施するということもあり、通常よりも実験的に思い切ったことを実施し、将来に向けたデータを取得するため、11月については「30分間隔」で運行する内容である。また、JR加茂駅西口に発着する奥畑線、銭司線、西線については、恭仁宮跡や海住山寺へのアクセス利便性を向上させるため、観光シーズンである11月中は土休日も運行を行うこととしている。

・一般的に生活路線のバスは、平日はある程度の利用があるが、休日には利用が少ないという路線が多い。土休日の利用状況が苦しいためバス路線として成立し

にくいという状況になるところが多い。土休日に観光客の来訪が増加すれば、生活路線を支えることにもつながり、通年的な運行につながることも見えてくる。

・観光客は移動する時間帯が集中することが多く、万が一バスが満員で乗れない場合は、タクシーを利用していただくことになる。恭仁京・海住山寺方面の車両はジャンボタクシーで、現在の利用状況を見ると定員10名で十分だが、観光客が増えた場合、若干の不安がある。

・海住山寺方面のバスについて、社会実験を実施し、観光客が多く訪問するようになれば、車種などを見直すこともあるのか。

- ▶ ・見直すことも考えられる。今の段階では、大型バスを走らせることは非現実的である。現状では海住山寺にバスを使って訪れている方は、おそらくいないのではないか。

・高齢者の利用が多いことを考えると、フリー乗降の活用はできないか。

・当尾線のループ化や、加茂の三塔を巡るための当尾地域と海住山寺方面の直通路線を設定できないか。バスが2台あれば運行できると思う。11月からの社会実験で実施することは難しいと思うが、将来的に検討して欲しい。

- ▶ ・フリー乗降は便利のように見えるが、いろいろな問題点があり難しい。一度でも事故が起こればシステム自体への非難が起り得る、また手を挙げられた場所が交差点であれば通過せざるを得ないこともあり導入は考えていない。

・バス1台で循環する路線にすると、今よりも不便になるため現段階では考えていない。利用者が増加し、将来的に2台での運行が可能になった場合には実施可能性を検討する。

・時刻表を記載した観光客向けのモデルコースの作成はできないか。

- ▶ ・バスのダイヤはパターン化されているため、作成は可能であり、バスを利用したモデルコースを作成する予定である。

・現在実施されている朝市や特産品の販売について提示していただいたが、これらを観光施設の駐車場などで開催してはどうか。11月中に実施するには準備時間が短いため厳しいかもしれないが、PRのためにも是非やってはどうか。

・バスの社会実験が11月から開始されるため、観光についても積極的に急いで動いていかなければならない。ご協力をよろしくお願いしたい。

今回の分科会では、実施概要や方針について確認していただいた。今後は実際に加茂地域の観光に携わっている方に参加していただくこともあるかと思う。

(2) その他

法定協議会への報告の取扱いについて
会議結果要旨のとおり。

	<p>次回分科会について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>7. 閉 会</p> <p>以上。</p>
その他 特記事項	